

視 察 報 告 書 (委員用)

2023 年 10 月 20 日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会

勝田鮮二

印

令和 5 年 10 月 4 日から令和 5 年 10 月 6 日まで鳥取市議会“会派”未来ネットの一般行政視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

日時；10 月 4 日（水）13：00～15：00 北海道白老町若草町 2 丁目 3（現地）（民族共生象徴空間）ウポポイ視察

人口；15, 520 人 世帯数；9, 257 世帯 面積 425.64 km²

議員；13 名

面会者；ウポポイ民族共生象徴空間）羽生（道庁職員出向者）、学芸員様

・白老とは、アイヌ語で[虻あぶの多いところ] という意味の言葉（シラウオイ）からきている。面積の 75%を森林が占め、自然にあふれたのどかな街。気候は、穏やかで夏は涼しく冬の積雪も多くない。

平成 19 年 9 月⇒国連会議で先住民族の権利に関する国連宣言が採択

平成 26 年 6 月⇒民族共生象徴空間の整備及び管理運営に関する基

方針が閣議決定。北海道白老町に整備されることが決定。

平成 30 年 12 月⇒民族共生象徴空間の愛称が一般投票により「ウポポイ」に決定。

令和 2 年 7 月 12 日⇒ 一般公開となる。

<テーマ 1>

国立ウポポイ（民族共生象徴空間）の導入経緯、概要、運営の現状と課題について
アイヌの世界と出会う場所。

ウポポイ；アイヌ語で「おおぜいで歌うこと」を意味する。

経緯

国の貴重な文化でありながら、存立の危機にあるアイヌ文化の復興・創造のための拠点として、また将来に向けて、先住民族の 尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな文化を築いていくための象徴となる空間を設立。

概要

- ・ **博物館エリア**では、学芸員の方の説明案内あり。

展示鑑賞⇒言葉・世界・暮らし・歴史・仕事・交流の6つの大テーマについて、アイヌ民族の視点で紹介されている。

シアタープログラム⇒アイヌの歴史と文化を動物が子どもから大人までわかりやすく解説され、とても良く分かりやすく表現されていた。

⇒海外でのアイヌ資料や收藏の様子、展示の様子や、現代のアイヌ民族と各国の研究者とのかかわりを紹介されていた。

- ・ **東エリア**では、体験エリアとなっている。

ものづくり見学・刺繍・木彫りなど体験でき、様々な人々が楽しく体験でき、とても良いアイデアと感じた。

- ・ **伝統的コタンエリア**では、視聴・芸能・ファミリー劇場・アイヌ語学習・弓矢体験・丸木舟実演など、様々なプログラムが用意されていて、来客者を飽きさせない工夫をされていると感じた。

<所見>

アイヌに対する理解度に関する世論調査によれば、アイヌの人々や文化に接した機会の有無についての問いに対し、70.5%が無いと回答しているとの事。

国と道庁と地元との協働で国立として設立された施設。アイヌ民族の貴重な文化を後世に伝えていくため、園内での様々な体験プログラム、展示など知的好奇心を刺激するコンテンツが豊富に用意されていて、子どもから大人まで、一般の方をはじめ障がいの方にも優しい施設だと感じた。さらに、歴史や文化への誤った認識から、就職や結婚などにおいて差別や偏見や生活上の様々な人権侵害が存在しているとの事。

本市においても、情報発信・教育・啓発を進めて行く必要を強く感じた。





<テーマ2>はこだてみらい館・はこだてキッズプラザについて

日時；10月5日（木）9：30～11：45 北海道函館市若松町 20-1

（現地）

人口；251,084人 世帯数；121,793世帯 面積 677.87 km²

議員；27名 平成17年10月1日⇒中核市へ移行

面会者；函館市議会事務局）吉田 主任主事様・米谷 課長様

函館市経済部商業振興課）工藤 主査様・尾崎瑞枝 主査様

函館市は北海道の南西部渡島半島の南東に位置し、1859年、横浜・長崎とともに日本最初の国際貿易港として開かれて以来、早くから海外との交流が始まり、近代日本の幕開けの中でいち早く外国文化に触れ、市民の中にも新進的な国際感覚が息

づく、長い歴史と文化を有する街とのこと。

また、平成の大合併北海道第1号として、平成16年12月1日に4町村と合併し「海」を活かした街づくり基本理念とし、(国際水産・海洋都市)の形成を図っていくとともに、特色ある観光資源を生かし「国際観光都市」としてのさらなる発展を目指すとされている。

・北海道新幹線・新函館北斗駅が開業

平成17年5月着工～平成28年3月26日開業

・函館クルーズターミナル⇒函館駅に隣接した場所に完成

・函館空港や北海道縦貫自動車道など含めた総合交通体系の充実が図られており、街の発展条件が多く揃っていると感じた。

はこだてキッズプラザについて

<目的> 子どもおよびその保護者に対して、遊びを通じて交流する場および子育てを支援する場を提供することにより、中心市街地のにぎわいの創出を図る。

<施設の概要>

名称；キラリス函館 建物構造；鉄筋コンクリート、
地下1階地上16階

各階施設；地下1階～地上2階⇒店舗・業務

3階；はこだてみらい館

4階；はこだてキッズプラザ

5階～16階；分譲マンション(84戸)

<施設内訳>

面積；1,203.22㎡

内容；プレイランド(596㎡)、乳幼児コーナー(61㎡)、
託児室(44㎡)、授乳・おむつ替え室(18㎡)
相談室(16㎡)他

開館時間；10：00～18：00

休館日；年末年始(12月31日～1月1日)、毎月第2水曜日

<運営主体>

指定管理者；はこだてみらいプロジェクト運営グループ

代表者；(株)こどもクラブ

構成員；(株)NAアーバンデベロップメント
ソニーピーシーエル(株)

指定監理期間；1期目；H28.10.15～R3.3.31(5年間)

2期目；R3.4.1～R8.3.31(5年間)

<使用料> 子ども；300円 保護者付き添い人；100円

その他；3か月券・6か月券あり。

生後6か月に達しない者、その他市長が特に認めた者は無料。





<所見>

プロジェクションマッピングを最大限活用された施設、さらに ICT を駆使し子どもたちの創造力や表現力を引き出し、体感しながら遊べる。楽しみながら身につく施設に設計され、安価で雨の日でも利用者が多いと説明を聞き、感動した。私たちが視察中にも、多くの就学旅行生が見学に来ており、本市にも子育て世帯や子どもたちの施設がないので、おおいに参考になった。是非、駅周辺にぎわいづくりに盛り込みたいと感じた。

はこだてみらい館について

<目的> 市民及び観光客に対して先端的な技術を活用し、創意工夫を生かした体験、交流の場を提供することにより、中心市街地のにぎわいの創出を図る。

<施設の概要>

名称；キラリス函館 建物構造；鉄筋コンクリート、
地下1階地上16階

各階施設；地下1階～地上2階⇒店舗・業務

3階；はこだてみらい館

4階；はこだてキッズプラザ

5階～16階；分譲マンション（84戸）

<施設内訳>

面積；1,325.09㎡

内容；多目的ホール（457㎡）、シアター（117㎡）、
テラス（115㎡）、ラボラトリー（53㎡）
360スタジオ（27㎡）他

開館時間；10：00～20：00

休館日；年末年始（12月31日～1月1日）、毎月第2水曜日



<運営主体> はこだてキッズプラザと同じ。

<使用料> 子ども；300円 20人以上の団体；240円

その他；3か月券・6か月券あり。

小学校就学前の者、その他市長が特に認めた者は無料。

*市民より、規模が小さいのに使用料が高いと不評のため、他の施設に合わせ、平成30年4月より半額とし、利用増を狙ったがコロナ禍により伸び悩んでいる！との事。

<管理運営経費、令和4年度>

(歳入) ¥26,281,577円

(歳出) ¥213,169,917円

1/10が、まかなえていない。

<所見>子どもたちに経験してもらい、上質な空間で質の高い

おもちゃや様々な体験画面出会い、大人たちや友達と出会うことで、感性を磨き、知恵と思いやりの心を育み、元気に楽しく遊びながら強く、優しく、感性豊かな人間に育ててほしい、と考えられた施設である。本市のまちづくりに、とても参考になる。

本市にはない施設なので、取り込めれば子育て世帯を含め最高だ。また雨天日には利用者が安心して活用出来、利用者も多いとの事、そして視察中、多くの修学旅行生が見学に来ており、施設内のプロジェクトマップやゲーム感覚で出来るICTを駆使したコンテンツを楽しく体験していました。

本市駅周辺のにぎわいづくりにおいて、採用できれば最高だ。

<テーマ3>八戸ポータルミュージアム・八戸まちなか広場について

日時；10月6日(金)9:00~11:00青森県八戸市内丸一丁目1-1

現地)八戸市三日町11-1視察

人口；222,032人 世帯数； 世帯 面積305.56km²

議員；32名 中核市へ移行

面会者；八戸市議会事務局)議事調査課)福澤様

八戸ポータルミュージアム館長)加藤公(女性)様

現地；八戸市職員の方より説明・案内、複数人様

八戸ポータルミュージアムはっちについて

八戸ポータルミュージアム4階⇒こどもはっち

<施設> 館内は木の温もり、たっぷりの交流空間。地域の親子に豊かで優しい時間を届ける施設。

・ごっこステージ・絵本展望台・交流サロン・木のプール

・はっちのいえ・昔あそび

季節行事・文化体験活動・パパママ支援など様々な事業を計画。

＜所見＞運営自身を市民が行い、家族や友人・知人を巻き込みながら、手作りで行っている。様々なワークショップを開催され、人気の親子ワークショップでは、夏休みや冬休みの自由研究も開催。サークル・各種団体も利用できるスペース空間が設けられており、ショップ・飲食・芸能など、素晴らしい取り組みの施設経営と感じた。歩行者通行料など目で見える管理もされており、これからが楽しみな施設になると感じました。本市にはない施設なので、取り込めれば子育て世帯を含め最高だ。また雨天日には利用者が安心して活用出来、利用者も多いとの事、本市駅周辺のにぎわいづくりにおいて、採用できれば最高だ。





八戸まちなか広場について

八戸で初めてのガラスの屋根付き広場で、雨や雪などの天候に左右されずに過ごせる多目的スペース。

日中は自然光を取り入れ、夜は町の行灯（あんどん）として機能する。

憩いの空間として、活用されている。

<設備> 1階⇒⇒シンボルオブジェ（水の樹）

・大型ビジョン 203 インチ縦 2.5m× 横 4.5m

可動式テーブル、椅子・エレベーター

・バスロケーションシステム（バスナビ8）

2階⇒⇒ベンチ・可動式テーブル、椅子・ピアノ

その他⇒公衆無線 LAN・イベント用電源、給排水栓

<所見>春から秋にかけては、風が通り抜ける空間。冬は、大型スライドガラスを閉じることで、一定の快適空間を保ち、貸出時間 9:00~21:00、休館日なし、でコンサート・食・パフォーマンス・トークイベント・ケータリングカー・噴水など、屋根のある全天候型の半屋外広場で、様々なイベントに利用できるように施設運営されている。本市には、無い設備広場であり是非、まちづくり、賑わいづくりに検討し、取り入れるべきと感じた。



行政視察報告書

令和5年10月18日

鳥取市議会議長様

未来ネット 米村京子

記

10月4日（水）

ウポポイ（民族共生象徴空間）

国の貴重な文化でありながら、アイヌ文化の復興・創造等の拠点です。



伝統芸能を鑑賞し、特に言語や習など、独自の自主性を感じることができました。アイヌの文化の魅力は目・耳・心で感じ歴史や文化を、多方面で学べる施設です。修学旅行生も多く来館していました。

小学生の時点で、アイヌ民族を知ること

は、とても重要であると、思います。民族の誇りを大切にしていきたいものです。



今回丁寧な説明を受けました。他国との交流があったこと。ウポポイはアイヌ語でおおぜいで歌うことを意味しています。人と人との繋がりをもち争いのない社会を目指していました。尊厳を尊重し、差別のない

多様性で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴として位置づけら

れています。

今回鳥取市人権教育協議会企業部会10月11日研修会で「アイヌの人々の人権問題」取り上げた研修会に参加しました。ウポポイへ視察し深く視野を深めることができました。

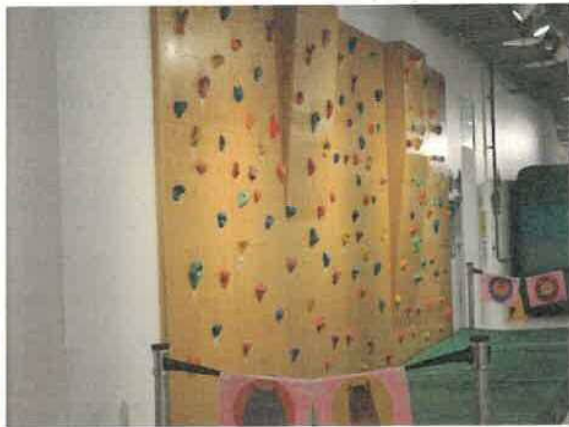
10月5日（木）

「はこだてみらい館」「はこだてキッズプラザ」

平成28年10月15日「はこだてみらい館」「はこだてキッズプラザ」を開設。平成25年～29年「函館市中心市街地活性化基本計画」において低利用・老朽化が著しいビルを含む街区を一体的に再開発し、商業施設、集合住宅子育て世代活動を支援、施設を整備し中心市街地の波及効果を生み出す。「函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業」を行うこととなり、中心市街地の活性化をより効果的に推進するための事業として開設された。



函館駅前の賑やかな場所にあり。修学旅行生の子どもたちの興味をそそるAIの施設があり、安価な料金で利用でき、子育てに優しい空間は、親子の時間を楽しそうに作り出していました。



雨の日も多く安心できる施設です。函館駅前の商業施設に隣接していて、子どもたちを中心としたにぎわいに繋がっています。とても参考になりました。

10月6日（木）

八戸ポータルミュージアム「はっち」 hacchi



八王子市三日町中心市街地は、八戸城を中心に形成された城下町であり、歴史と文化の息づく街として、古くから活況を呈する街でした。

しかし、全国的に中心市街地の空洞化や商業施設の低下が懸念される中、八戸市も例外でなく、中心市街地を八戸の「顔」にふさわしい、人々が集い、賑わいのあふれる空間に再生するため（仮称）八戸市中心市街地地域観光交流施設として整備を始めました。経過とともにH23年2月、八戸ポータルミュージアム「は

「はっち」が開館しました。H28年には来館者が500万人に達し、29年「地域創造大賞」（総務大臣賞）を受賞しています。



令和5年2月に来館者が1000万人に達し全国にも注目されています。

「はっち」の目的は新たな交流と創造拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図ることで中心市街地と八戸市全体の活性化を目指しています。【建物】

【展示】【事業】のコンセプト掲げ、誰でも気軽に立ち寄れる空間づくりを、目標にしています。中心市街地の賑わい創出事業です。

八戸まちなか広場「マチニワ」

経緯は、八戸ポータルミュージアム「はっち」と同時期に「はっち」の前の空間が「はっち」と連携して、街なかの「庭」のような役割を担っています。自由に活用することができ、市民の憩いの場であるようです。



(様式5)

視 察 報 告 書

令和5年10月12日

鳥取市議会議長 西村 紳一郎 様

鳥取市議会 長坂 則翁

令和5年10月4日から令和5年10月6日まで鳥取市議会「会派未来ネット」の視察に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等： 北海道白老町

調査項目

- ◎ウポポイ民族共生象徴空間について
 - ウポポイ(民族共生象徴空間)は、北海道の貴重な文化でありながら、存在する危機にあり、アイヌ文化の復興・創造等のための拠点である。
 - 愛称のウポポイとはアイヌ語で「大勢の歌うこと」を意味している。
 - 開館は2020年(令和2年)7月12日のオープンで、比較的新しい施設である。
 - ウポポイ民族共生象徴空間の施設は、体験学習館、体験交流ホール、いざないの回廊、歓迎の広場、エントランス棟、国立アイヌ民族博物館、工房、伝統的コタン(民家)、ホロト湖、で構成されている。
 - 国立アイヌ民族博物館は、先住民族アイヌを主題とした、日本の国立博物館である。

。国立アイヌ民族博物館の理念は、先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展を寄与することを目的としていふ。

[所見]

- 。国内には、部落差別・障がい者差別等さまざまな差別が存在しているが、これもお互いに認め合う共生社会の実現に向けて努力がなければならぬ。
- 。鳥取市は人権尊重都市宣言を行っており、今後も更に人権施策を積極的に推進していく必要がある。

北海道函館市

調査項目

- ① 「はこだてぬらい館」について
- 「はこだてスキッププラザ」について

設置経緯

前市長(H23.4~R5.4)の政策の一つとして「駅前市有地での民間商業施設と子どもおもしろ館、キッズセンターなど公共施設合築による集客施設建設」を基本とし、施設整備の検討が開始された。

その後、「函館市中心街地活性化基本計画(計画期間:H25~H29)」において、低利用化・老朽化が著しい和光ビルを含む街区を一体的に開発し、商業施設、集合住宅、子育て世代活動支援施設等を

整備することにより、街区の機能更新、高度利用に伴い、中心市街地全体の波及効果を生み出すとともに、多くの利用者が見込まれる子育て世代活動支援施設も、街区が居住に著する集合住宅を整備するため「函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業」を行うこととなり、中心市街地の活性化をより効果的に推進するため、当該事業で建設する再開発ビル内に当該公共施設整備することとし、平成28年(2016年)10月15日に「はこだてみらい館及び「はこだてキッズプラザ」が開設される。

○設置の目的

・「はこだてみらい館」

市民及び観光客に対し先端的な技術を活用することとその他、創意工夫を生かした体験及び交流の場を提供することにより、中心市街地の活性化を促すことを目的としている。

・「はこだてキッズプラザ」

子ども及びその保護者に対し遊びを通じて、交流する場及び子育てを支援する場を提供することにより、中心市街地の活性化を促すことを目的としている。

○施設の概要

・「再開発ビル全体」

・名称、キラリス函館

・各階施設、地下1F～地下2F 店舗、業務

3F はこだてみらい館、4F はこだてキッズプラザ

5F～16F 会議エントランス(847)

・「はなびてみらい館」

・施設内容、多目的ホール、ツアラー、テラス、
ラボラトリー、360スタジオ(FMスタジオ)

・「はなびてキッズプラザ」

・施設内容、プレイグランド、乳幼児コーナー、
託児室、授乳・おむつ替え室
相談室

[所見]

○ 本館市も本市同様、中心市街地の活性化が課題となっており、また、子育て支援にも積極的に取り組んでいることを痛感した。(「はなびてみらい館」「はなびてキッズプラザ」を視察し)

本市も、一層の中心市街地活性化に向けた施策の推進を図る必要がある。また、本市の移住・定住の促進のためにも子育て環境の整備、充実を図り、人口増加に努めたいと考えている。

青森県 八戸市

調査項目

◎ 「八戸ポータルミュージアム」について

「八戸まちづくり広場」について

○ 八戸市の中心市街地は、1600年代より城下町として発展し、昭和30年代から商業、金融、行政等の機能が集約された。八戸市の中心部、都市の顔として栄えてきた。

しかし、その賑わいの陰りが見えはじめてきた。

八戸市の顔に魅かれ活かしをどのように再創造していくかが課題となっていた。

- 八戸ポータルミュージアム「はっち」は、新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出と、観光と地域文化の振興を図りながら、中心市街地と八戸全体を活性化するため、2011年2月11日にオープンしている。
- 八戸市は、人、食、文化などの財産がたくせあるといわれている。「はっち」はそれらをあらためて見直し、時には新しいものを取り入れるながら、音、新たな魅力を創り出し、活性化をすすめて、市民の地域への更なる誇りを育むため、施設としての「はっち」は、「市民がまちを想い、まちを動かす」プロジェクトでもあると考えられている。

[所見]

- 八戸市も、本市と同様に、中心市街地の活性化が課題となっていた。
- しかし「はっち」のオープンより、2012年から2013年の一年間の来館者が100万人から200万人に増えたという驚異的な伸びを示している。
- 本市においても、中心市街地活性化への何らかの更なる施策の推進が求められている。
- とりわけ「ハットとトリ」の再創造は重要な課題であると考へる。
- 「ハットハット」も活用があり方について、いそ一度検討する必要があると考へる。